

# 中日ニュース

シネスコ版

高知新聞=22 No. 371

新愛媛新聞=22 No. 199

No. 536

## 一、南極からかわいいお客

四月二十日、東京晴海ふ頭に南極からのかわいいお客、「おすまし屋」のペンギン四十羽と日本にはじめてという「ミナミゾウアザラシ」の赤ちゃん四頭がやってきました。元気のよいペンギンにくらべて、暑さと長旅でつかれたアザラシ君はいささかご機嫌なめさんさんふてくされたのち動物園の園長さんにつれられ上野、大阪などの各動物園に行くことになりました。

## 一、華子さんのお妃教育

四月十四日、義宮さまと津軽華子さんとの「納采の儀」が津軽家で行なわれました。これは一般家庭の結納にあたるもので、ここにお二人のご婚約は正式に成立したのです。

ついで十六日からは「お妃教育」がはじまり、英会話、宮中儀式、行事などの講義を六月中旬まで受けられ、

ご婚儀の日までを「修養と鍛練」にはげまれるわけです。

カメラスケッチ

## 一、ただいま切手株上昇中

通信記念日の四月二十日早朝、街の郵便局の道路はどこもかしこも時ならぬ長蛇の列です。

この列、実はこの日発行された新切手を買い求める人達なのです。

老若男女を問わず、今や日本の郵趣人口は急激に増加しているといわれています。手紙の郵送手数量としての域を越えて、株券に変わる投機性を帯びて、その動きは切手相場表まで発刊されるに至った不思議なブームを形成しています。例えば昭和九年に発行された記念切手は当時九銭五厘だったのに、今や何と四万円もの値を呼んでいる始末です。このような巷の切手ブームを百貨店が見落すはずがありません。切手展示会を催せば会場は盛況そのもの、その足で切手コーナーへ。ここでは子供達が大人顔負けの札びらを切っています。「もったいない」などということは素人すじの台詞。そして切手は食料品のサービス品として完全にコミーシャルベースを形成しました。

器から包装紙にいたるまで全て切手づくめです。このように浸透した切手ブーム。値段が手頃できれい。誰でも身近に感じる切手は純粋な趣味での収集家を喚かせながらその大部分が投資としての切手ブームをあおりたてているのです。

86

75

462

62304